

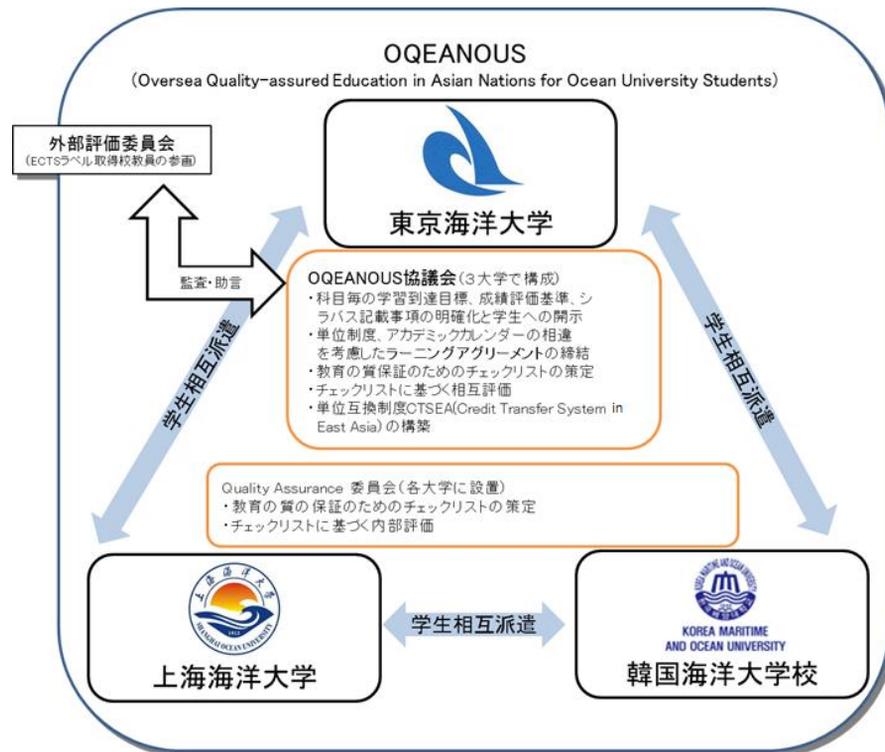
# 大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 東京海洋大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-② CAMPUS Asia))

「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム(オケアヌス(OCEANOUS)プログラム)

## 【事業の概要】

国際的に認識されている単位互換制度(ポローニャ・プロセス)と同等の質保証を伴った、単位互換可能な学生交流を大学院レベルで実現することにより、海洋分野における高度専門職業人を養成するとともに、安定的な日中韓大学間交流を促進する。



ECTS: ヨーロッパ諸国の単位互換制度「European Credit Transfer System」

Quality assurance 委員会: 各大学での教育の質を保証するために設置される。

## 【交流プログラムの概要】

本プログラムは、上海海洋大学及び韓国海洋大学校と連携し、博士前期課程学生等を対象としたプログラムの立案を目指すものである。具体的な取り組みは以下のとおりとする。

- ・STP(リサーチインターンシッププログラム): 博士前期課程へ進学を前提とした学部4年次学生を対象として、連携大学に1ヶ月程度派遣し、大学院開講科目の先行履修による単位取得、研究活動及び短期インターンシップを行う。
- ・IJP(海洋分野における国際協働教育プログラム): 派遣先大学に1セメスター以上滞在し、開講される指定科目の中から6単位以上の単位を取得するとともに、長期インターンシップを実施する。
- ・DDP(海洋分野における共同学位プログラム): 出身大学と連携大学のいずれかに、それぞれ1年間以上滞在し、双方で修士論文研究を行い、出身大学と派遣先大学の双方の学位授与基準を満たすことによって、両大学から修士の学位を取得する。

## 【本事業で養成する人材像】

海洋の持続可能な開発と利用において、広い専門知識を備え、環境戦略的な観点から長期的視野に立ち、独立した判断ができる職業人が必要とされている。

そこで、本プログラムは、日中韓プログラムで行った専攻横断的なカリキュラムのほか、新たに単位互換制度を構築し、質保証された科目履修及びインターンシップを実施する。これにより、専門分野における独創的な思考能力や研究の基礎力を充実させ、高度な専門性を基礎に、多様なアプローチを考案しながら実践の場で問題解決に結びつける能力を持つ国際的な高度専門職業人を養成する。

## 【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C2 K1	C5 K5	C5 K5	C5 K5	C5 K5
中国(C)での受入	J2 K1	J5 K5	J5 K5	J5 K5	J5 K5
韓国(K)での受入	J1 C2	J5 C5	J5 C5	J5 C5	J5 C5

※本予定人数は、IJP及びDDPの数値である。

# 1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA- ② CAMPUS Asia ))

「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム(OQEANOUSプログラム)

## ■ 交流プログラムの実施状況



〈研究室訪問-イカ耳石の取出し実験 to 上海海洋大学〉



〈中国語教室体験 to 上海海洋大学〉



〈東京海洋大学水産資料館見学 from 韓国海洋大学校〉

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成29年3月21日(火)～3月23日(木)にかけて、DDP及びIJPの参加を目的として、上海海洋大学に8名の学生を派遣した。なお、派遣先では、キャンパス見学、学生交流、研究室訪問などを行うとともに、地域の文化等を体験し、異文化コミュニケーション能力の向上を図った。

### ○ 外国人留学生の受入

平成29年2月8日(水)～2月10日(金)にかけて、DDP及びIJPの参加を目的として、韓国海洋大学校の大学院生9名が本学を訪問した。希望する研究分野等に分かれ、日本語模擬授業、造波水槽・回流水槽の見学や研究室見学を行い、本学及び本プログラムの情報提供を行った。

	H28
日本(J)での受入	C0 K9
中国(C)での受入	J8 K5
韓国(K)での受入	J0 C0

〈 H28 各大学における学生交流実績 〉

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

平成28年度に、日中韓3大学の教員と教務担当事務職員をメンバーとして設置した「OQEANOUS(オケアヌス)協議会」を2回開催した(準備会合を含めると3回)。本協議会は、ヨーロッパの「エラスムス計画」の手法を参考にしながら、各国の大学院教育の独自性を保持した統一基準の単位互換システム、成績評価基準、具体的なプログラム内容(STP, IJP, DDP)等を協議した。

また、ECTSラベル取得校であるトルコのエーゲ大学から、ヨーロッパ諸国のECTSに精通した教職員を招聘し、ECTSの概要やエーゲ大学における取組状況等の説明を受けた後、意見交換会を行った。

さらに、ECTSの取り組みを把握するため、国際担当理事、教員及び教務担当事務職員がノード大学(ノルウェー)を訪問し、ECTSの概要、ノード大学がECTSの認証を取得した理由及び効果、取り組み状況等の説明を受け、意見交換を行った。



〈 エーゲ大学等との意見交換会 〉

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

OQEANOUS(オケアヌス)協議会において、本事業における外国人学生の受入及び日本人学生の派遣に向けた、各大学による財政的サポート及び宿舎の提供等の協議を行った。その結果を受けて、本事業による留学生の増加を見越して、民間から寮を借り上げ、受入れに向けた施設の拡充を行った。

さらに、平成29年4月に本事業のサポート体制を強化するために大幅な事務改組を行い、国際・教学支援課を新設し、専門の担当者を配置するほか、国際交流推進室を設置し、国際関連業務、留学生関連業務等を一元的に管理する体制強化を実施する。

また、平成29年3月に、本事業での派遣及び受入れの双方向実施を目指して、本事業への参加を希望する学生の派遣及び受入れを行い、相互視察をもとに派遣予定先の研究状況や生活環境などに関する情報の収集及び提供を行った。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本事業のパンフレットを作成し、本学在学学生向け(日本人学生向け)に事業内容等の周知を行った。併せて、専用HPを開設し、事業の詳細を開示している。なお、HPにおいてはECTSと同等またはそれ以上の情報発信を目指して、コースカタログや事業へ参加するための申請書などを掲載していく予定である(<https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeanous/>)。

また、新聞社等のマスコミに対して積極的に取組情報を発信することで、情報の公開、成果の普及に努めた。

## ■ グッドプラクティス等

本事業では、平成29年9月の受入と派遣の開始に向けてECTSに引けを取らない三大学間での単位互換制度であるCTSEA(Credit Transfer system in East Asia) Guidelineを作成することができた。また、HPの情報提供を目指して個々の学生に対して締結するLearning Agreementなどの整備に努めた。将来的には、本プログラムの成果を踏まえ、ほかの日中韓大学にも展開するとともに、ECTSラベル取得校、ACTSラベル取得校との学生交流への発展を目指す。